

石の恩返し

藤の台小学校 六年

石塚 灯真

俺はユニカールが好きだ。（ユニカールとは、特殊なカーペットでストーンを投げる、町田市ではやつてているスポーツ）いろんな戦術があつておもしろい。

ある灼熱の日光が降り注ぐ日。俺は日陰の道路を散歩していた。そして、道の真ん中にある、小さな石を見つけた。このままで、タイヤに踏み潰されてしまう。俺は、その石を遠くのくさむらに置いた。

次の日、ユニカールの試合があつた。今は、8—6で負けている。ついに俺の番が来た。力を込めて投げたストーンは、不自然な曲がり方をして、他の石に当たり、一機に3点を手に入れた。スーパーショットだ。他の人は、不自然な曲がり方をしたことに気づいていない。あまり納得いかない気持ちのまま家に帰り、気づいた。

「これは、石の恩返しだったのか。」

そして俺はあることを思いついた。

次の日もとても暑かつた。うら庭にある、巨大な石を助けようと思つた。もしかして、石も熱中症になるのではないかと思つた俺は、黒いビニールシートをかけて石を「助けた」。

次の試合。12—0でボロボロ負けしている。そのくせ、まだ恩返しは來ていない。いつになつたら來るのかと思つたその時、上から巨大な石が降つてきた。そのまま全てのストーンを潰した。

「もしかして、これは、石の恩返し？」

そして、石が喋つた。

「いかがでしよう。この恩返しは。」

東京町田・中ロータリークラブ賞
石塚灯真「石の恩返し」

(555文字)

審査員講評

ユニカールをテーマにしたショートショート小説は初めて読みました！ユニカールの試合中、ストーンの動きの描写がとてもいきいきとしています。石が熱中症になるかもしれない、という発想もかなりユニーク。石自身のひょうひょうとした言葉で終わるところにセンスを感じました。

—— 藤岡みなみ

東京町田・中ロータリークラブ賞
石塚灯真「石の恩返し」